

Jリーグ 愛媛FC 10万人まで あと6,275人

ホームゲーム入場者 まであと6,275人
ご家族、お友達とご一緒にスタジアムでご声援ください!

● 2006年 J2リーグ公式戦 第50節

愛媛FC 対 サガン鳥栖 戦

11月23日(木・祝) 13:00 キックオフ

愛媛県総合運動公園陸上競技場

愛媛県松山市上野町乙46

- JR松山駅より伊予鉄バス15系統(約40分)
「えひめこどもの城」行で「陸上競技場前」下車
- 伊予鉄松山市駅より伊予鉄バス15系統乗車
(約30~35分)「陸上競技場前」下車

● 入場券発売場所・金額など

前売り券は、愛媛FC事務局、オレンジスポット、ローソン・サンクス・サークルK・ファミリーマートのコンビニで購入できます。当日券はスタジアムチケット売場、オレンジスポット、コンビニ(キックオフ時間まで)にてお求め下さい。

券種	SA席		A席		B席		ローソン Lコード 60024
	共通	一般	一般	小中	一般	小中	
前売り	¥2,700	¥2,200	¥1,200	¥1,200	¥500		ファミマ・サンクス等
当日	¥3,000	¥2,500	¥1,500	¥1,500	¥800		Pコード 592-680

J2リーグ初年度、後期になって上昇一途の愛媛FCが 現在4位(後期2位)、昇格可能性^(※)を残すサガン鳥栖と激突! 来季、昇格を争う可能性が高い手強いライバルとの前哨戦!!

(※) 第48節終了時点

後期だけの順位 **第7位**
望月監督は今期を前半と後半の二期に分け、前半を1年目と位置づけ勝ちにこだわらない育成期間とし、後半は結果を求め勝ち点を取りに行く2年目として着実に結果を積み上げています。

過去、J2からJ1昇格を果たしたチームのほとんどがJ2初年度ホーム10万人動員を達成できていません。残り1試合ですが是非大台にのせて初年度の歴史を刻みましょう。

クール順位	総合順位	チーム名 残り試合対戦相手	勝点	試合	勝	引分	敗	得点	失点	得失差
1	1	ヴィッセル神戸	43	20	13	4	3	35	23	12
2	5	サガン鳥栖	39	20	12	3	5	30	16	14
3	2	横浜FC	39	20	11	6	3	33	22	11
4	3	柏レイソル	33	20	10	3	7	38	31	7
5	6	東京ヴェルディ1969	33	20	10	3	7	35	35	0
6	7	コンサドーレ札幌	28	20	7	7	6	32	29	3
7	9	愛媛FC	28	21	7	7	7	29	26	3
8	4	ベガルタ仙台	27	20	7	6	7	26	20	6
9	8	モンテディオ山形	22	21	5	7	9	21	24	-3
10	10	湘南ベルマーレ	22	20	6	4	10	27	37	-10
11	11	水戸ホーリーホック	20	21	6	2	13	25	33	-8
12	12	ザスバ草津	19	20	4	7	9	20	32	-12
13	13	徳島ヴォルティス	11	21	2	5	14	21	44	-23

動員順位	チーム名	ホームゲーム観客数合計	参入年
1	ベガルタ仙台	320,713	1999
2	コンサドーレ札幌	219,197	1998
3	柏レイソル	177,747	1995
4	サガン鳥栖	160,553	1998
5	ヴィッセル神戸	139,315	1997
6	東京ヴェルディ1969	126,644	1993
7	湘南ベルマーレ	114,540	1994
8	モンテディオ山形	112,734	1999
9	横浜FC	104,456	2001
10	愛媛FC	93,725	2006
11	ザスバ草津	79,234	2005
12	徳島ヴォルティス	76,969	2005
13	水戸ホーリーホック	65,763	2000

第4クールだけの順位 **第5位**
4回目の総当たりとなる第4クールでは昇格争い中の柏に完勝。首位の神戸と引き分けるなどさらにチームは進化を続け上位に僅差に付けています。来季昇格争いに食い込む期待が膨らみます。

対戦相手としての観客動員力はリーグの中で存在感につながります。関東のサポーターの力を結集して大台6,000人を狙いましょう。(全国の延べ14万人に真面目な愛媛をアピール!)

クール順位	総合順位	チーム名 残り試合対戦相手	勝点	試合	勝	引分	敗	得点	失点	得失差
1	5	サガン鳥栖	19	8	6	1	1	11	5	6
2	1	ヴィッセル神戸	16	8	5	1	2	18	12	6
3	2	横浜FC	16	8	5	1	2	16	11	5
4	6	東京ヴェルディ1969	16	8	5	1	2	17	15	2
5	9	愛媛FC	15	9	4	3	2	15	10	5
6	3	柏レイソル	14	8	4	2	2	18	13	5
7	7	コンサドーレ札幌	12	8	3	3	2	17	10	7
8	4	ベガルタ仙台	10	8	2	4	2	9	8	1
9	8	モンテディオ山形	7	9	1	4	4	10	12	-2
10	11	水戸ホーリーホック	7	9	2	1	6	9	12	-3
11	13	徳島ヴォルティス	6	9	1	3	5	9	20	-11
12	10	湘南ベルマーレ	5	8	1	2	5	7	17	-10
13	12	ザスバ草津	5	8	1	2	5	6	17	-11

動員順位	チーム名	アウェイゲーム観客数平均	参入年
1	横浜FC	8,098	2001
2	東京ヴェルディ1969	7,773	1993
3	柏レイソル	6,669	1995
4	コンサドーレ札幌	6,321	1998
5	モンテディオ山形	6,204	1999
6	ヴィッセル神戸	5,926	1997
7	ベガルタ仙台	5,906	1999
8	湘南ベルマーレ	5,870	1994
9	愛媛FC	5,857	2006
10	ザスバ草津	5,822	2005
11	水戸ホーリーホック	5,774	2000
12	徳島ヴォルティス	5,615	2005
13	サガン鳥栖	5,030	1998

愛媛FC Jリーグ初年度 大健闘中!

アウェイ残り2試合は関東での開催!

● 2006年 J2リーグ公式戦 第49節

愛媛FC 対 湘南ベルマーレ 戦

11月18日(土) 18:00 キックオフ
 平塚競技場
 (検索エンジン[平塚競技場]で検索) ローソン
 Lコード 30649
 神奈川県平塚市大原1 ファミマ・サンクス等
 - JR「平塚」駅より徒歩20分 Pコード 592-100
 同駅北口より神奈川中央交通バスもしくはシャトルバス運行
 小田急線「伊勢原」駅南口より路線バスもしくはシャトルバス

第2クールでの対戦は県民文化会館から830人がパブリックビューイングで声援したカード。3-1で快勝し苦手アウェイゲーム克服のきっかけに。

● 2006年 J2リーグ公式戦 第52節(最終節)

愛媛FC 対 横浜FC 戦

12月2日(土) 14:00 キックオフ
 横浜市三ツ沢公園球技場 ローソン
 (検索エンジン[三ツ沢]で検索) Lコード 30739
 横浜市神奈川区三ツ沢西町3 ファミマ・サンクス等
 -JR「横浜」駅西口よりバス Pコード 592-950
 (6~11番乗り場)で「三ツ沢総合グランド入口」下車徒歩2分
 -市営地下鉄「三ツ沢上町」駅より徒歩15分

開幕戦で歴史に残る初勝利を挙げた相手。未だ同一チームに2敗しない堅守に再度挑む。昇格争いを左右する重要な一戦となる可能性大。

プレイバック! 絶好調の後半戦

国立競技場初見参 盟主東京ヴェルディ1969を撃破!

8月6日 第32節 愛媛FC 4-1 東京ヴェルディ1969
 1990年、南宇和高校の全国選手権制覇から16年。愛媛のサッカーが国立に戻ってきた。しかも相手はJリーグ初代王者の東京ヴェルディ。さすがに開始直後、緊張からか落ち着かず先制を許すものの、直後に江後がトップスピードで抜け出して同点、続いて赤井が右サイド、角度のないところから豪快にミドルを叩き込んで逆転、さらに田中が押し込んで追加点と前半30分で4-1という怒涛の攻撃。後半も追加点こそ挙げられなかったもののモチベーションの落ちたヴェルディを終始圧倒し完勝。内容のいい試合を続けていた愛媛が結果を出し始めるきっかけを掴んだ。アウェイ側ゴール裏に関東圏内から、また遠く愛媛から駆けつけた総計1,500人のサポーターがヴェルディ側スタンドを圧倒。伊予魂コールが夏の夜空にこだました。歴史は聖地国立に刻まれた。

首位チーム撃破!

10月18日 第45節 愛媛FC 3-1 柏レイソル
 上位チームに善戦しながらも勝ち切れない試合が続いていた愛媛が、首位の柏レイソルをホームで迎え撃った。対柏レイソル3連敗うち0-1が2試合。それも80分以上を0-0で耐え、育成段階であることを重視して、引き分け狙いの戦い方をしたためだけの惜敗。先を見据えた育成プランにより経験値を上げてきた若いチームがいよいよ結果を出した。堅実かつ組織的な守備をベースに柏の攻撃の起点、J1クラスの外人リカルジーニョを愛媛ユース出身の井上が完封。後半になると攻撃陣が一気に爆発し、菅沼、田中、江後が縦横無尽に相手守備を切り裂き3ゴールの大金星。監督も「これでひとつ坂を上って景色が変わった」と愛媛になぞらえた詩的なコメントで手ごたえを表現。J1昇格レースの鍵を握る厄介な存在として注目を集めることになった。

三ツ沢で起きた「番狂わせ」(サッカー専門紙「エルゴラ」記事) 11月5日 天皇杯4回戦 愛媛FC 0-1 日産F・マリノス

「今まで積み重ねてきたものがあって、横浜FM相手でもやれる自信があった」と江後が話すように、J2第45節では3位柏に完勝、第47節では首位神戸を引き分けるなど、「ここまでやってきたことは間違いではない」と話す望月監督の指導の下、若い選手を中心にチームは着実に力を付けてきたのだ。だからこそ、その蓄積を抱いて臨んだこの試合で愛媛が横浜FMを圧倒したからといって決して驚くことではないのである。最後は決定力を欠き、敗れることとなったが、「見ていて感動するチームだった」(水沼監督)愛媛。「来季は昇格を争えると思う」という江後の強気の発言が虚勢には聞こえないほど、「可能性」を感じさせる戦いぶりを今の愛媛は見せている。(佐藤拓也)

四国ダービー最終ラウンド 渦潮完全制圧!

10月30日 第43節 愛媛FC 1-0 徳島ヴォルティス
 過去3戦の四国ダービーを2勝1分と勝ち越しを決めた上で再び敵地に乗り込んだ愛媛。対する徳島は直前にJリーグ昇格時を含め7年以上にわたり采配を振った田中監督が辞任し、先に昇格したチームとしてのプライドを守るため必ず一矢報いるという悲壮な決意を持って待ち構える。後任の東監督のもと、集中して守備を安定させる徳島に対し前半は攻めきれず0-0のまま終えるが、愛媛が一貫して前線からプレスをかけ続けたことにより徳島の攻撃力は半減。後半開始直後、右サイド赤井からのクロスから菅沼がゴール! その直後にDF森脇が退場となったものの、ベテラン星野および石丸の投入により徳島の攻撃をしのぎ切り三たび勝利! JFL時代に一勝もできなかった徳島に対し、Jリーグ初年度は一度も負けずともなく四国ダービーを終えた。

温泉ダービー最終ラウンド 因縁の対決を制す!

10月22日 第46節 愛媛FC 5-2 ザスパ草津
 JFL時代からのライバルでありJ昇格では先を越されたザスパ草津との温泉ダービー第4ラウンド。過去1勝1敗1分の五分で迎えた雌雄を決する戦いだったが1点勝負というプランで消極的にゲームに入った草津に対し、愛媛は前半終了間際に菅沼が跳ね返りを落ち着いて叩き込むと後半開始直後も再び菅沼がドリブルからのミドルシュート。さらにこれまで生かせなかったセットプレーから南がヘッドで合わせて3点目。この後、2点を奪われるものの交代出場の子島と石丸がファインゴールを決めて突き放し、相手側レポーターをして「技術、戦術、気迫、すべての面で愛媛が上回り完膚なきまでに叩きのめされた」と言わしめた。Jリーグ昇格を争った2004年、敵地で2点先制しながらも後半5ゴールを奪われて完敗した借りをJの舞台で完全に返した。

念願のJ1チームとの対戦決定!

10月8日 天皇杯3回戦 愛媛FC 2-0 びわこ成蹊スポーツ大
 念願のJ1チームの公式戦初対決を実現するためには格下相手とはいえ、確実な勝利が求められたこの試合。愛媛FCはベストメンバーで望んだ。例年のことではあるが、同日に行われた他の試合でJリーグチームの取りこぼしが相次ぎ、昇格を争う横浜FC、ヴィッセル神戸、さらには一昨年の天皇杯覇者である東京ヴェルディ1969までもが格下チームの下克上の餌食となったことから分かるように徹底的に引きこもって争う格下チーム相手に難しい試合となる可能性もあった。そんな心配をよそに、ボールを確実に支配する質の高い試合運びを身につけた愛媛はJの貫禄を見せて危なげなく勝ちきり、4回戦に進出を決め、前身の日産自動車時代を含めると計6回、天皇杯を制している古豪、横浜F・マリノスと対決が決まった。

再び首位チームから勝点! 昇格争いの鍵を握る

10月27日 第47節 愛媛FC 0-0 ヴィッセル神戸
 第45節の柏レイソルに続き再び首位チームをホームに迎えた。柏戦快勝の記憶がまだ新しいなか期待が高まったが、かねてより望月監督が「J1仕様、J1並みの戦い方をするチーム」と評してきた神戸はさすがに隙がなくどころかも攻めきれないまま前半が終了。後半はJ1入替戦出場権を得る3位以内を確定したい神戸が「決勝戦のつもり」と猛攻をしかける展開。これまでここで押し切られていたが、今期を通じ守備についても確実に上積みを重ねた愛媛は残り時間をしのぎ切った。決して引きこもった守備一辺倒ではなく、ある程度ボールを支配しながら引き分けに持ち込んだことにより、J1横浜FMマリノス戦(天皇杯)への大きな自信となる勝点1を掴んだ。敵将をして「愛媛も決勝戦という感じで戦っていた」と評価されたほど気迫あふれる内容だった。

Jリーグ 愛媛FC にみなさまの 愛 をください。